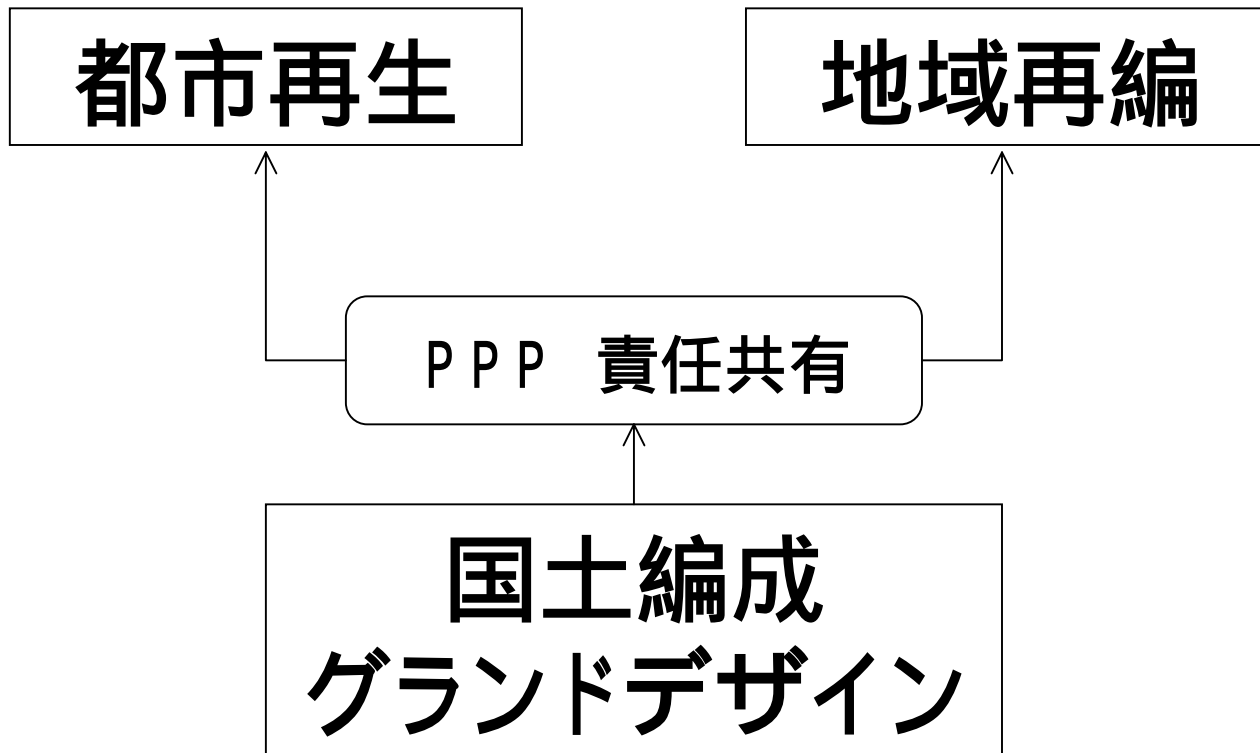
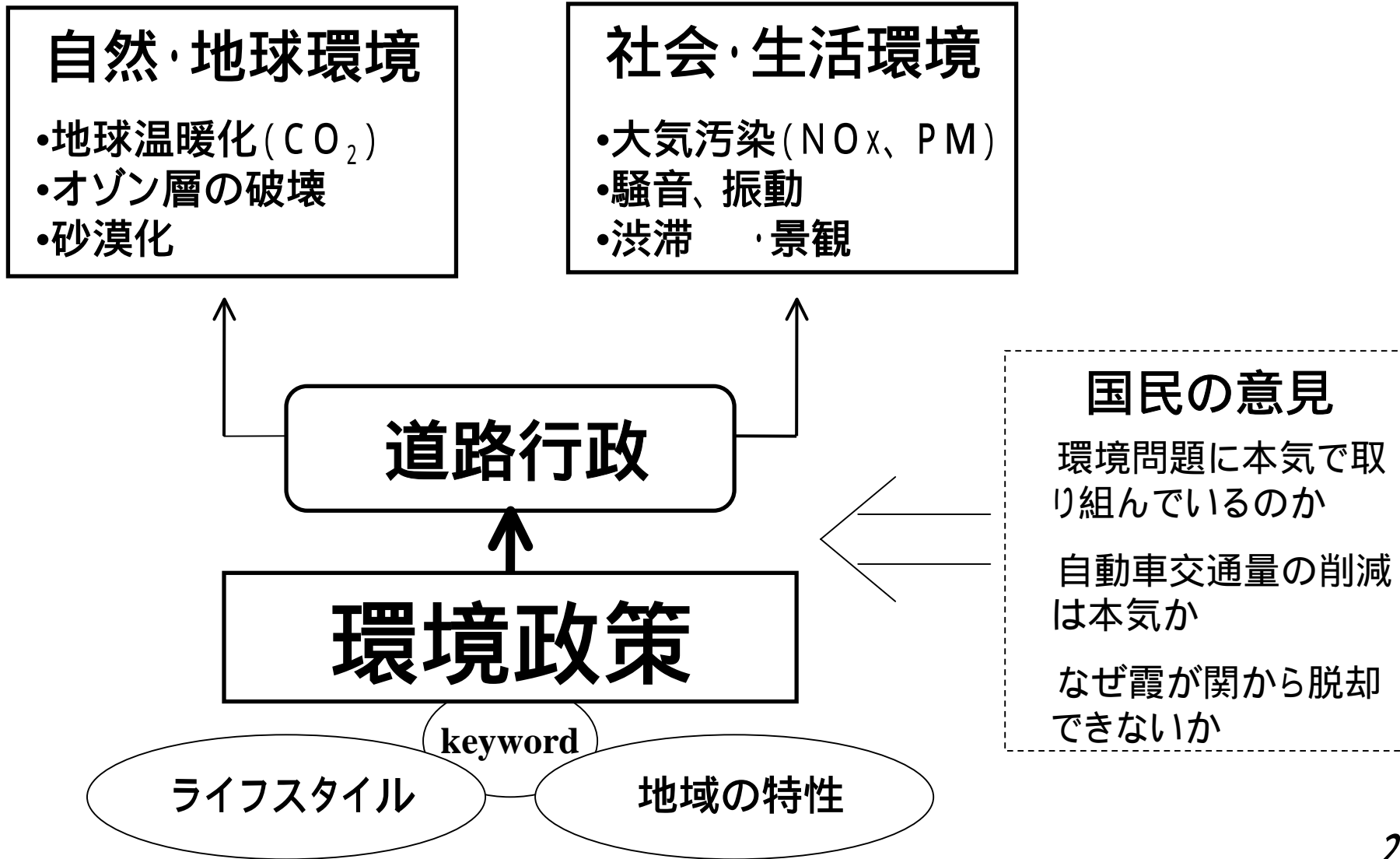


国土再編の基本政策



環境政策における道路行政のあり方



(1) 環境政策と道路行政

環境問題は世界の大きな関心事

- 1972年の国連人間環境会議（スウェーデン・ストックホルム）、1992年の地球サミット（ブラジル・リオデジャネイロ）等が開催されており、この数十年の世界的関心事項。
- 今年（2002年）の8月・9月には、南アフリカ共和国のヨハネスブルクにおいて、持続可能な開発に関する世界サミット（「環境サミット」）が開催される。

自然・地球環境問題は、人類の存続に係る問題

- 地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、森林減少などは地球規模の環境問題。
- 地球の限りある資源（大気、水、緑など）を子孫に継承するため、自然・地球環境問題の解決は重要な課題。

社会・生活環境問題は、人間の尊厳に係る問題

- 自動車排出ガスによる大気汚染、騒音、渋滞などは社会・生活環境に係る問題。
- 人間が、人間らしい豊かな生活を送るため、社会・生活環境問題の解決は重要な課題。

環境問題の解決のキーワードは、「ライフスタイル」と「地域の特性」

- 1人1人が、より環境に配慮した適切なライフスタイルに転換。
- 都市規模や既存の都市施設等の地域の特性に応じた適切な対応。

「環境の改善・保全のため、道路行政としてどのような施策を実施すべきか。」という思考。

- 「道路行政の範囲内で環境の改善・保全を実施」という思考からの転換

(2) 道路行政に対する国民の意見

道路行政は、環境問題の解決に本気で取り組んでいるようには見えない。

- 大気汚染問題の解決や自動車からのCO₂排出量の削減は、道路行政の責務。
- 道路行政は対策を講じていると言っているが、環境問題は一向に改善しないではないか。
- 道路行政は、道路建設が第一で、環境問題の解決に本気で取り組む気がない。

自動車交通量を減らして欲しい。

- 道路をつくると一時的に交通の流れは良くなるが、さらに交通量が増えてしまい、元の木阿弥になってしまう。
- 大都市圏では、自動車交通量そのものを減らさなければ、環境は良くならない。

環境政策にも縦割り行政の弊害が生じている。

- 道路行政は、環境問題についても「それは所掌外なので、できません。」「担当が違うので、わかりません。」と言いつばかりしている。

国は現場の実情を知らない。

- 国は机の上で仕事をしているから、現場の実情もよくわからず、適切な対策を講じることができない。

グローバルな視点が欠如していないか。